

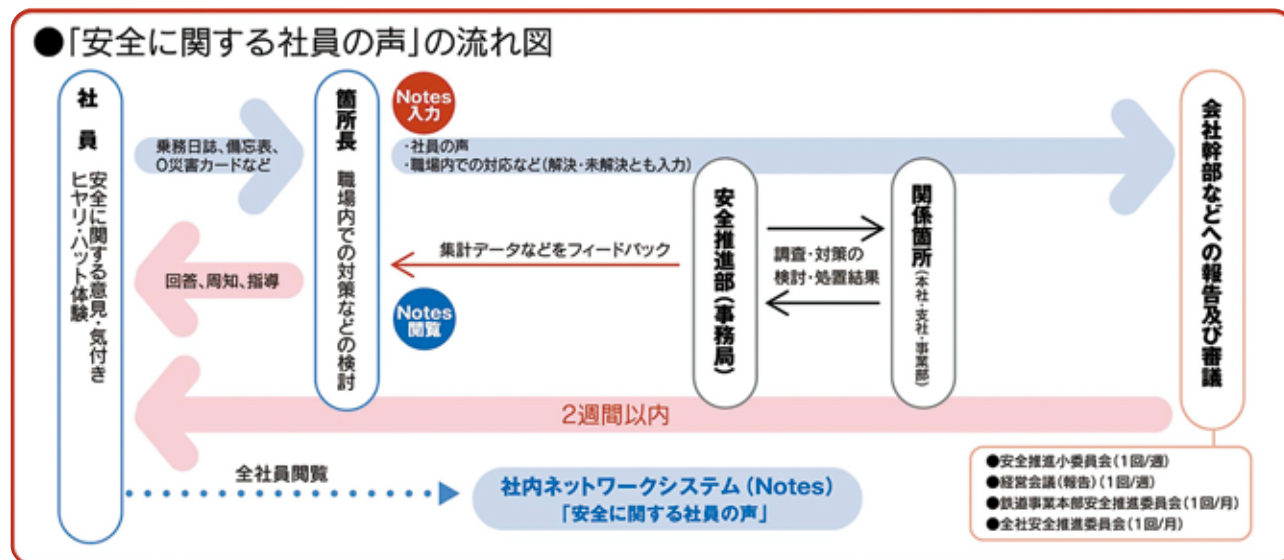
② 安全管理の方法

安全の確保のためには、社員一人ひとりが高い安全意識を持ち、安全について自由に意見を交換しあえる風通しのよい組織であることが大切です。そのために、平成21年度は『安全風土を確かなものへ～「プロの5つの資質」を高めよう～』をスローガンとする「安全創造運動2009」を展開し、安全風土の形成に努めました。

1. 「安全創造運動2009」の展開

平成18年度から「安全に関する社員の声」を基盤とした「安全創造運動」を展開してきましたが、平成21年度は、プロの5つの資質を安全風土の形成に向けて高めていくために「安全創造運動2009」を展開しました。

「安全に関する社員の声」は、「安全の向上のためには社員参加が何より大切」との認識のもと、社員から寄せられた意見・気付きやヒヤリハット体験を設備改善やルールの見直しなど会社施策に反映させるとともに、社内ネットワークシステムを通して会社全体で共有し、事故の未然防止につなげることを目的とした取り組みです。社員から寄せられた声は「速やかに対策を実施する事項：A件名」、「中長期的に検討する事項：B件名」、「今後の参考とする事項：C件名」に分類し、内容と対策については2週間以内に経営会議で報告し、その情報は社員にも公開しています。



「安全創造運動2009」の具体的な展開については、安全についての社長メッセージと運動の取り組み内容を記載したパンフレットを全社員に配付するとともに、現場社員を対象とした説明会を開催してその内容を周知しました。あわせて、各職場にポスターを掲出したりヘルメットや氏名札にステッカーを貼付することで「安全創造運動2009」に対する意識の高揚と運動の深度化を図りました。



ステッカー

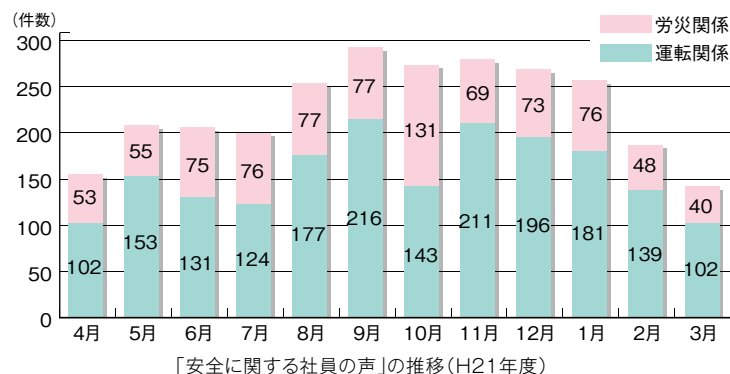


パンフレット



ポスター

安全風土の形成には、社員一人ひとりが「安全に関する社員の声」に参加することが不可欠であることから、社員の運動への参加意欲を向上させるため、社員から寄せられた声のうち、重大事故の未然防止に繋がったもの等、今後の安全向上に資すると認められるものに対しては「安全推進賞」として322件の表彰を行いました。また、より一層の安全に対する取組み意欲の向上と社員の安全意識の高揚を図るため、安全推進賞の中から特に優れているものを表彰する「安全推進特別賞」を平成20年10月に新たに制定し、17件の表彰を行いました。さらに、自らのヒヤリハット体験を積極的に声に出し、全員で共有したことにより今後の事故等の未然防止につながったと認められる声に対しては、「ヒヤリハットオープン賞」として210件の表彰を行いました。



	件数 (運転関係)(労災関係)	対前年
平成19年度	1,843 (1,229)(614)	+127
平成20年度	1,924 (1,241)(683)	+81
平成21年度	2,725 (1,875)(850)	+801

「安全に関する社員の声」の年度別件数

■安全大会

平成21年5月に開催した「安全大会」では、JR九州グループ会社及び協力会社(92社)の安全担当者等(142名)と労働災害防止に向けた意思統一を図ることが出来ました。



安全大会の様子

■安全創造取組発表会

平成21年10月に開催した安全に関する取組みを発表する「平成21年度安全創造取組発表会」では、「安全に関する社員の声」を活用した取組みやスキルアップに向けた取組みが数多く発表され、取組みの水平展開が図られました。



安全創造取組発表会の様子

■安全創造講演会

平成22年2月に安全意識を高める取組みとして「平成21年度安全創造講演会」を開催し、(株)スターフライヤーの現役機長に「“そら”の知を鉄道へ～考える乗務員を育てる～」と題して、講演していただきました。



安全創造講演会の様子

「スキルアップ」の取組みとして、各職場で知識・技術の向上を目指した訓練が実施されました。

臨時列車を使用した訓練や他職場・他職種との合同訓練、シナリオなしの訓練など、工夫を凝らした内容でした。



「安全創造運動2009」を通して行われた取組みの記録は、過去3年間に引き続き「安全創造運動の記録Part4」として冊子にまとめ、全社員に配布して更なる運動の推進に役立てることとしました。

2. 現場社員とのコミュニケーションの強化

現場社員の意見や現状を迅速に把握し、事故防止に活かすため次の取組みを実施しました。

■ 社長と現場社員との意見交換会の開催

従来の駅、車掌、運転士、車両、施設、電気に加え事業開発、旅行事業等の各システムの管理者および社員との意見交換会を実施しました。各職場における日頃の取組みや問題点などが直接社長に伝えられ、現場の現状や課題等について共有化が図られました。意見についてはその場で回答を行い、検討を要する意見については、後日検討した結果を社内ネットワークを活用した掲示板に掲載しました。



社長との意見交換会の様子

■ 鉄道事業本部長による オフサイトミーティングの開催

「オフサイトミーティング」とは、安全統括管理者（鉄道事業本部長）と現場社員による意見交換会であり、日頃から思っていることをリラックスして「気楽にまじめな話をする」を目的として開催しています。7箇所の支社・鉄道事業部等で144名の管理者、現場社員と意見交換を行いました。意見についてはその場で回答を行い、検討を要する意見については、後日検討した結果を社内ネットワークを活用した掲示板に掲載しました。



オフサイトミーティングの様子

■ 安全推進プロジェクトによる現場巡回

平成17年9月に「風通しの良い会社をつくり、みんなで安全に取り組む」ことを目的に、安全推進プロジェクトを設置しました。駅運転、車掌、運転士を指導する本社の各部署に配置したベテランの担当部長が、積極的に各現場を巡回し管理者や社員との意見交換会を実施するとともに、定例訓練等にも参加し本社の安全に対する方針を直接伝えました。また、意見交換会等を通して課題が見られた場合には、本社に持ち帰りその課題を共有するとともに、直ちに解決策を講じました。



現場社員との意見交換会の様子

■ セーフティアップミーティングの開催

毎月2回、社長、安全統括管理者（鉄道事業本部長）及び安全推進プロジェクトの各担当部長や各主管部長、現場長等が参加して、安全について様々な意見交換を行いました。このミーティングでは、安全推進プロジェクト担当部長の現場巡回の報告や現場における事故防止の取組み等、安全に関する情報の共有を図るとともに、自由闊達な議論を行いました。



セーフティアップミーティングの様子

■JR九州グループ会社との安全懇話会の開催

安全中期計画における新たな取組みとして、安全懇話会を毎月1回定期的に開催しました。各社の取扱い誤り及びヒヤリハット事例とその対策等を共有し、JR九州グループ一体となって安全風土の形成を図りました。特に重大労災である「触車」と「運転支障（触車には至らなかったものの、列車の運転に支障を生じたもの）」に焦点を当て情報共有を図るとともに、触車事故防止に努めました。



安全懇話会の様子

4 輸送障害等の状況と再発防止措置

1. 鉄道運転事故

鉄道運転事故とは、次のものをいいます。

(1) 列車衝突事故

列車が他の列車又は車両と衝突し、又は接触した事故。

(2) 列車脱線事故

列車が脱線した事故。

(3) 列車火災事故

列車に火災が生じた事故。

(4) 踏切障害事故

踏切道において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故。

(5) 鉄道人身障害事故

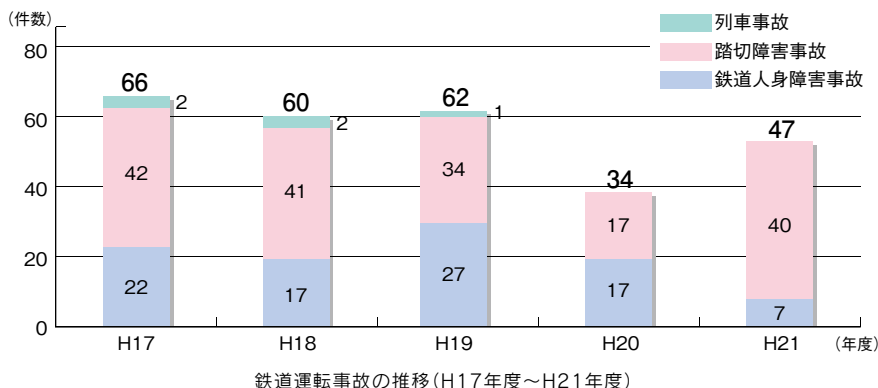
列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故。

(6) 鉄道物損事故

列車又は車両の運転により500万円以上の物損を生じた事故。

この3つを総称して
「列車事故」といいます。

鉄道運転事故が47件発生しました。



■列車事故

列車事故の発生はありませんでした。